

# 漱石 建物の記憶



入場  
無料

## 第1部 講演

### I 「文豪と間取り」

デザイン評論家・武蔵野美術大学教授 柏木 博

### II 「漱石山房記念館について」

早稲田大学名誉教授・博物館明治村館長 中川 武

## 第2部 シンポジウム

### 「漱石の東京」

作家（第151回芥川賞受賞）柴崎 友香  
柏木 博、中川 武、新宿区長 吉住 健一  
（コーディネーター 朝日新聞記者 牧村健一郎）



博物館明治村  
二重橋飾電燈

博物館明治村：森鷗外・夏目漱石住宅

平成28年 2月7日 日 14:00 開演 (13:15 開場) 四谷区民ホール

(新宿区内藤町 87 四谷区民センター 9階)

主催



共催

朝日新聞社

▶新宿区公式 HP <http://www.city.shinjuku.lg.jp/>

# ～漱石 建物の記憶～の開催にあたって



夏目漱石記念施設整備プロジェクト Vol. 6 ～漱石 建物の記憶～にご来場いただき、誠にありがとうございます。

新宿区は、漱石が生まれ育ち、その生涯を閉じたまちです。区では漱石生誕 150 周年にあたる平成 29 年 9 月の開館に向けて、漱石が晩年の 9 年間を過ごし、数々の名作を世に送り出した新宿区早稲田南町 7 番地に、初の本格的な記念施設となる（仮称）「漱石山房」記念館の整備を進めており、平成 28 年 4 月からは建設工事に着手する予定です。

記念館の整備にあたり、全国の皆さまのご支援をいただきたいと考え、平成 25 年 7 月より「夏目漱石記念施設整備基金」への寄付の受付を開始いたしました。ご厚志をお寄せいただきました皆さまには心より御礼申し上げます。開館に向けて、引き続き皆さまの温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

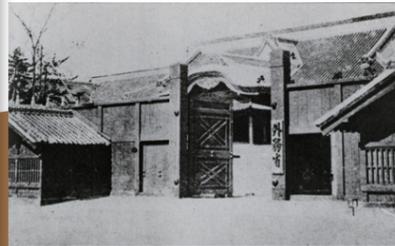
本日は漱石山房や漱石作品の中に描かれた建物に焦点をあて、第 1 部ではデザイン評論家・武蔵野美術大学教授の柏木博さんと、早稲田大学名誉教授・博物館明治村館長の中川武さんに、それぞれ専門的視点からご講演いただきます。そして第 2 部では、第 1 部出演のお二人に、芥川賞受賞作家の柴崎友香さんを加え、漱石が作品に描いた東京と現代東京の魅力などを語っていただきます。

漱石の生きた時代や記念館整備に思いを馳せ、ごゆっくりお楽しみいただければ幸いです。

新宿区長 吉住 健一



明治村の鷗外漱石旧宅



大名屋敷の外務省  
明治 2 年(1869) 漱石 2 歳



馬車が通る日本橋  
明治 25 年(1892) 漱石 25 歳



建設中の東京駅  
大正 2 年(1913) 漱石 46 歳



浅草仲見世  
(大正時代・震災前) 漱石没後



関東大震災直後の浅草凌雲閣  
大正 12 年(1923 年)

## 第 1 部 講演

### I 「文豪と間取り」

デザイン評論家・武蔵野美術大学教授 柏木 博

### II 「漱石山房記念館について」

早稲田大学名誉教授・博物館明治村館長 中川 武

新宿区夏目漱石記念施設の完成は平成 29 年 9 月となりました。『日記で読む文豪の部屋』の著者である柏木博氏には、漱石作品に出てくる建物と間取りから読み解く登場人物の心理や作品の魅力を語っていただきます。また記念施設建設に深く関わる中川武氏には、記念施設の概要や、自らが館長を務める博物館明治村に保存されている漱石と森鷗外の旧宅について解説してもらいます。



柏木 博  
Hiroshi Kashiwagi

昭和 21 年兵庫県生まれ。デザイン評論家、武蔵野美術大学教授(美学美術史研究室)。平成 6 年文化庁芸術選奨選考委員。平成 10 年文化庁メディア芸術祭審査員。著書に『ファッションの 20 世紀』(日本放送出版協会)、『探偵小説の室内』(白水社)、『デザインの教科書』(講談社)、『日記で読む文豪の部屋』(白水社)他多数



中川 武  
Takeshi Nakagawa

昭和 19 年富山県生まれ。建築史家、早稲田大学名誉教授、博物館明治村館長。日本国政府アンコール遺跡救済チーム(JSA)団長。著書に『日本の家～空間・記憶・言葉』(TOTO 出版)、『よくわかる日本建築の見方』(JTB パブリッシング)、『日本の古建築～美・技術・思想』(青土社)他多数

## 第 2 部 シンポジウム

### 「漱石の東京」

作家(第 151 回芥川賞受賞) 柴崎 友香  
柏木 博、中川 武、新宿区長 吉住 健一

(コーディネーター 朝日新聞記者 牧村健一郎)

漱石が描いた関東大震災前の東京。江戸の香をわずかに残す文明開化の街が登場人物たちの舞台でした。第 1 部で講演をされたお二人に、漱石の住んだ東京に憧れて東京に創作拠点を移し、小説『春の庭』で芥川賞を受賞した作家の柴崎友香氏と吉住健一新宿区長を加え、漱石作品に出てくる東京と現代東京の魅力や、作品そのものについて独自の視点で語っていただきます。



柴崎友香  
Tomoka Shibasaki

撮影：川合穂波

昭和 48 年大阪府生まれ。平成 12 年『きょうのできごと』で小説家デビュー。平成 19 年『その街の今は』で第 57 回芸術選奨文部科学大臣新人賞、第 23 回織田作之助賞大賞、第 24 回咲くやこの花賞受賞。平成 22 年『寝ても覚めても』で第 32 回野間文芸新人賞、平成 26 年『春の庭』で第 151 回芥川賞受賞。その他の著書に『青春感傷ツアー』『また会う日まで』『ドリーマーズ』『わたしがいなかった街で』『星よりひそかに』『きょうのできごと、十年後』『パノラマ』エッセイ集『よう知らんけど日記』他多数

コーディネーター 牧村 健一郎  
Kenichiro Makimura



昭和 26 年(1951) 神奈川県生まれ。朝日新聞記者。早稲田大学政経学部卒。朝日新聞社入社後、校閲部、アエラ編集部、学芸部を経て、現在は文化くらし報道部 be 編集部。著書に『新聞記者夏目漱石』『旅する漱石先生』など。

## 漱石と東京 — まちの記憶 —

夏目漱石は生涯のほとんどを東京で過ごした作家です。

松山、熊本での教員生活やロンドン留学の期間を合わせても七年、四九歳で亡くなったので、人生の八割以上を東京で暮らしたということになります。

それに加えて漱石は家庭の事情や仕事の都合で多くの引越しを経験しました。熊本滞在中の僅か四年の間に六回もの引越しをしたことは有名ですが、東京においても生家や「漱石山房」があった早稲田、幼少期を過ごした内藤新宿や浅草、学生時代に下宿した小石川、留学から帰国後に暮らした千駄木など様々なまちで暮らしました。

このような漱石にとってのまちの記憶は漱石のほとんどの作品からうかがうことができます。『三四郎』では漱石が通った東京大学

周辺を三四郎やその他の登場人物たちが歩き回り、『門』では、宗助、お米が暮らす「崖の下の家」の場所こそはつきりとは書かれていませんが、漱石が暮らした当時の牛込界隈の情景が細やかに描き込まれています。

しかし、漱石が東京というまちの記憶を最もよく描いた作品と言えば、『彼岸過迄』において他にないでしょう。『彼岸過迄』の田川敬太郎は持ち前の好奇心と有り余る時間にまかせて東京を縦横無尽に歩き回ります（時には電車にも乗りますが）。そこに描かれた東京には日本橋三越や穴八幡宮など私たちにも馴染みのある場所が見られる一方で、既に失われてしまった有楽座や宮戸座といった劇場や市電の駅などを見つけることもできます。敬太郎と共に東京を辿る時、私たちは見慣れたまちを歩きつつも、同時にさながら森鷗外のように知らないまちを探検するような体験をすることができ

るのです。私たちに漱石の暮らした当時の東京を訪れることは叶いませんが、『彼岸過迄』などの作品を読むことによって、日々暮らすまちに秘められた古くて新しい一面を見るという、後世の読者ならではの楽しみが残されているのではないのでしょうか。



(記念館イメージ図)



## ともに創ろう、 (仮称)「漱石山房」記念館

漱石を発信する、活気とにぎわいのある記念館に  
漱石文学とともに、ゆったりとした時を過ごせる記念館に



### 施設の概要

- 所在地 新宿区早稲田南町7番地
- 延床面積 約1,280㎡
- 構造等 鉄筋コンクリート造・鉄骨造(再現展示室)  
地上2階、地下1階

敷地内の区立漱石公園には、芭蕉・トクサ・桜など当時の植栽が再現され、四季を感じながらの散策が楽しめます。

- 記念館内に書斎・客間・バルコニー廊など「漱石山房」の一部を再現
- 常設展のほか、企画展や講座・イベントを開催し、漱石やその文学の世界を紹介
- 漱石に関する本を読みながら、ゆったりとした時を過ごせる図書室やカフェを設置



(1階導入展示イメージ)



(2階展示室イメージ)

(今後のスケジュール) 平成28年度(2017) 建設工事着工  
平成29年度(2019) 9月 記念館開館

## 夏目漱石記念施設整備基金に ご支援・ご協力をお願いします

漱石ゆかりの新宿のまちに、初の本格的な漱石記念館を整備するため、全国の皆さまのお力添えをいただきたいと考え、平成25年7月に「夏目漱石記念施設整備基金」を設置しました。目標額を2億円として寄付の募集を開始し、1月〇日現在で〇万〇千円(〇件)のご寄付をいただいています。ご厚志をお寄せいただいた皆さまに心より御礼申し上げます。皆さまからの寄付は、記念館の建設と資料の収集に活用します。引き続き、皆さまの温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

## (仮称)「漱石山房」記念館ホームページ (<http://soseki-museum.jp/>) を開設しました。

記念館の施設概要、イベント情報などを随時更新していきます。どうぞご覧ください。

問い合わせ先

新宿区地域文化部 文化観光課 文化資源係

〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1 電話 03(5273)4126 〈直通〉